

科目名	救急対応 2								年度	2026
英語科目名	First aid and Emergency response 2								学期	後期
学科・学年	スポーツトレーナー科三年制	1年次	必/選	選 1	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	本郷		教員の実務経験		有	実務経験の職種		アスレティックトレーナー		
【科目の目的】 本科目では、JSP0-ATの役割における「救急対応」の位置づけを理解したうえで、医療資格保持者に引き継ぐための現場で出来る最高レベルの救急対応ができる実践的な知識、態度や技術を習得することをねらいとする。 合わせて、スポーツ活動現場における救急対応の特性と意義を理解することをねらいとする。										
【科目の概要】 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築におけるJSP0-ATの役割 ・救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点 ・スポーツ活動現場における救急体制構築や緊急時対応計画の立案に必要な要素、具体的な立案方法 ・緊急性を判断するための的確な方法を活用し、JSP0-ATの役割における救急対応 ・重症度や外傷、内科的疾患に応じた救急対応 ・競技・種目特性に応じた緊急時対応計画の計画や救急対応 										
【到達目標】 A: 初期評価 B: 搬送法 C: 競技・種目特性・症状に応じた緊急時対応計画の救急対応										
【授業の注意点】 スポーツトレーナーとしてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。「現場実習」と併せて学習することで、より理解力がすすむので積極的に実習に取り組む事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル5 優れている			レベル3 ふつう					レベル1 要努力	
到達目標 A	実践できる			説明ができる					理解している	
到達目標 B	実践できる			説明ができる					理解している	
到達目標 C	実践できる			説明ができる					理解している	
到達目標 D										
到達目標 E										
【教科書】 テキスト										
【参考資料】										
【成績の評価方法・評価基準】 テスト・レポート・平常点										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		救急対応 2			年度	2026
英語表記		First aid and Emergency response 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	スポーツ現場での外傷、障害の評価とその手順	初期評価 1	1 初期評価とは	初期評価を理解する	2	
2		初期評価 2	1 機器の扱い方	モニタリング機器機器の種類を把握し、扱い方を理解する	2	
3		体位管理と保温	1 体位管理	体位管理を理解する	2	
			2 保温管理	保温管理を理解する		
4		搬送法 1	1 搬送法における留意点	搬送法の留意点を理解する	2	
	2 各種搬送法		各種搬送法を知る			
	3 歩行補助具(松葉づえなど)		松葉杖の使用法を知る			
5	搬送法 2	1 搬送法の実際	搬送法を実施することができる	2		
6	裂傷・出血の救急対応	1 病態と医学的留意事項	裂傷・出血の病態を理解する	2		
		2 救急対応	救急対応の流れを説明でき、実施が可能			
7	打撲の救急対応	1 病態と医学的留意事項	打撲の病態を理解する	2		
		2 救急対応	救急対応の流れを説明でき、実施が可能			
8	肉離れの救急対応	1 病態と医学的留意事項	肉離れの病態を理解する	2		
		2 救急対応	救急対応の流れを説明でき、実施が可能			
9	捻挫の救急対応	1 病態と医学的留意事項	捻挫の病態を理解する	2		
		2 救急対応	救急対応の流れを説明でき、実施が可能			
10	スポーツ外傷に対する救急対応	骨折・脱臼の救急対応	1 病態と医学的留意事項	骨折脱臼の病態を理解する	2	
			2 救急対応	救急対応の流れを説明でき、実施が可能		
11	脳震盪の救急対応	1 病態と医学的留意事項	脳震盪の病態を理解する	2		
			2 救急対応			救急対応の流れを説明でき、実施が可能
12	頭部における重症外傷	1 病態と医学的留意事項	頭部の重症外傷の病態を理解する	2		
			2 救急対応			救急対応の流れを説明でき、実施が可能
13	頭部・脊椎における重症外傷	1 病態と医学的留意事項	頸部脊柱重症外傷の病態を理解する	2		
			2 救急対応			救急対応の流れを説明でき、実施が可能
14	特殊な外傷	1 病態と医学的留意事項	特殊な外傷の病態を理解する	2		
			2 救急対応			救急対応の流れを説明でき、実施が可能
15	まとめ	重症外傷の救急対応の実践・計画	1 計画立案	臨機応変な救急対応の立案ができる	2	
			2 シミュレーション	臨機応変な救急対応が実践できる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等